

○タイプ別感震ブレーカー等の主な特徴の比較（案）

	性能・機能				主な特徴				備 考	製品のイメージ※	
	出火予防性能【必須項目】		避難安全等確保機能【選択項目】		価格	電気工事	作動の信頼性	復旧のしやすさ			
	感震遮断	予防範囲	照明確保	通電継続回線確保							
簡易タイプ	(簡易試験)	★	★★★★	—	—	安価	不要	やや低くばらつきのおそれ	やや困難	<ul style="list-style-type: none"> 感震性能にやや劣り、ユーザー自ら取付けることから、設置方法に伴う作動の信頼性にばらつきが生じるおそれがある。 既設分電盤の形状によっては、取付け困難な場合がある。 揺れと同時に建物内の通電が一斉に遮断されることから、別途、避難用の照明等の確保が必要。 	 <p>地震の揺れに伴い、おもりが落下したり、バネが作動したりすることで、既設の分電盤のノブを操作し、電気を遮断するタイプ</p> 
	(標準試験)	★★	★★★★	—	—	安価	不要	高いがばらつきのおそれ	やや困難		
コンセントタイプ	(簡易試験)	★★	★	可	可	比較的安価	必要な場合あり	やや低い	容易	<ul style="list-style-type: none"> 単体の設置の場合は比較的安価。電気工事が不要なタイプ（コンセント差込型）と必要なタイプ（コンセント埋込型）の両者がある。 感震性能にやや劣るが、設置方法による作動の信頼性のばらつきが小さい。 電気製品の種別、レイアウトの変更等に応じた効果的な設置、継続的な対応が必要。 作動時においても照明等の通電は確保されることから、通電の遮断に伴う避難等の支障は小さい。 	 <p>コンセントに内蔵されたセンサーが地震の揺れを感知し、コンセントの電気を遮断するタイプ</p> 
	(標準試験)	★★★★	★	可	可	比較的安価	必要な場合あり	高い	容易		
	(全館設置)	★★★★	★★	可	可	高価	必要な場合あり	高い	容易		
分電盤タイプ	(標準試験)	★★★★	★★★★	可	—	高価	必要	高い	やや困難	<ul style="list-style-type: none"> 分電盤全体を交換する場合は比較的高価。既設の分電盤に増設する場合は比較的安価。電気工事が必要。 感震性能が高く、専門工事業者による設置も含め、作動の信頼性が高い。 感震後、通電の遮断までに一定の待機時間が設定されており、避難等の支障が生じるおそれが小さい。 遮断機が作動する前に停電した場合は、復電時に自動遮断する機能が備わっている。 待機時間後には、建物全体にわたり通電が遮断されることから、在宅用医療機器等、通電を継続する必要性の高い回線の確保はできない。 	 <p><内蔵型></p>  <p><後付型></p> <p>分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、電気を遮断するタイプ。既設の分電盤に後付けで設置するタイプもある</p>
	(総合タイプ)	★★★★	★★★★	可	可	—	必要	高い	—		

※これらは想定される製品のイメージであり、「感震ブレーカー等の性能評価ガイドライン」の公表時点で、当該ガイドラインに基づく性能が確認されたものではありません。